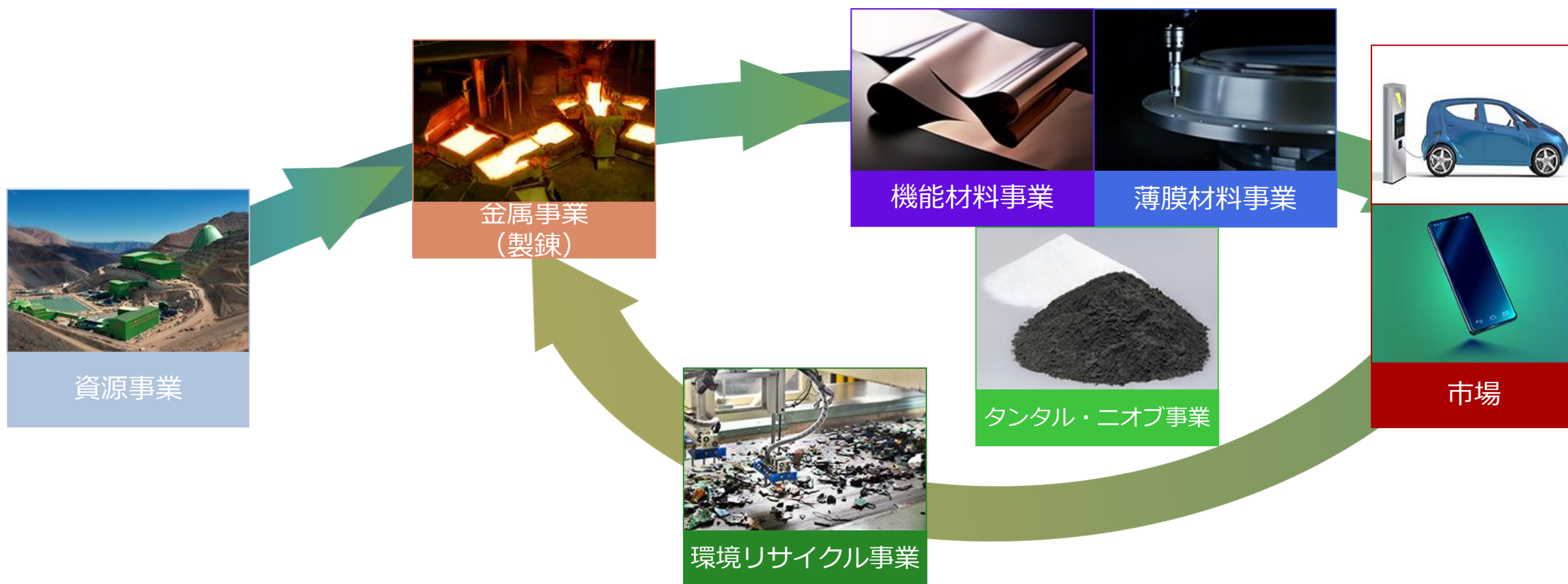


# JX金属グループの概況と 価値創造戦略

2022年3月14日

# JX金属グループの事業領域

上～中～下流までの**強固なグローバルサプライチェーン**を構築  
**技術立脚型企业**として資源・素材の革新と創造により持続可能な社会の発展に貢献



# 事業の優位性

上流・中流

## 高い生産性と環境技術により競争力を維持

権益銅生産量(年間)

約20万トン



銅生産量(年間)  
佐賀関製錬所の粗銅生産能力

約45万トン



リサイクル由来  
レアメタル・貴金属  
回収量(年間)

約0.6トン

白金



約7トン

金



約2.7トン

パラジウム



下流

## 技術の差別化によりグローバルニッチトップポジションを確立

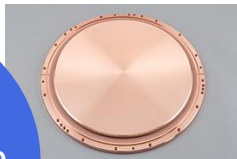
FPC向け圧延銅箔  
(世界シェア)

約80%  
No.1



半導体用ターゲット  
(世界シェア)

約60%  
No.1



光通信デバイス向け  
InPウェハー (世界シェア)

約50%  
No.1



電子材料向け高純度  
タンタル粉(世界シェア)

約50%  
No.1



2020年度実績

# 資源・製錬を巡る構造変化と価値創造戦略



## ベース事業（上流・中流）

### 資源事業

大幅な需要増が見込まれる一方、資源ナショナリズムの台頭、鉱石品位の低下や環境対応要求の高まりから開発コスト・リスクは増大

### 金属事業 (買鉱製錬)

国内需要は縮小、低マージン化や買鉱条件悪化の流れ  
東アジア市場を巡る製錬所の国際競争激化

### 環境リサイクル事業 (リサイクル製錬)

国際的なリサイクル原料の調達競争激化  
資源循環型社会におけるリサイクル材の需要拡大

今後の成長を支える  
**ベース事業**に位置付け

グローバル市場で優位性を確立できる**先端素材の安定供給に不可欠な機能に特化**して維持・強化を推進

# 先端素材を巡る構造変化と価値創造戦略

## フォーカス事業（下流）

機能材料事業  
(圧延銅箔・高機能銅合金  
条等)

薄膜材料事業

タンタルニオブ事業

その他先端素材事業

- 当社の先端素材は今後の社会を支える分野でニーズ拡大が期待  
電子デバイス、通信インフラ（5G、6G）、電池、半導体、センシング、ヘルスケア、航空宇宙等
- 新製品開発には長期のリードタイム  
⇔技術トレンド・製品ライフサイクルの短期化、代替素材による市場消失リスク
- 原料となるレアメタルは、偏在性、資源ナショナリズム、地政学リスク、環境・人権・生物多様性対応等により調達リスクが増大

グローバル競争で優位に  
立てる事業として**成長戦  
略のコア**に位置づけ

付加価値の高い製品・事  
業を継続的に生み出し、  
ニッチトップポジション  
の獲得を目指す

# 資源循環型社会に向けた価値創造戦略

## マテリアルリサイクル技術の強みを活かし資源効率性を追求

- 製錬所を国際的なリサイクルハブとして高度化

鉱石の製錬とスクラップ処理を同時に行える製錬所の機能を最大限に活用

海外からのリサイクル原料調達強化により、レアメタルを安定的に供給し、経済安保と資源循環に貢献

ハイブリッド製錬技術を高め、リサイクル原料比率の大幅な向上を目指す

2020年実績：約12% → 2040年目標：50%

- LiBクローズドループ・リサイクルのグローバル展開

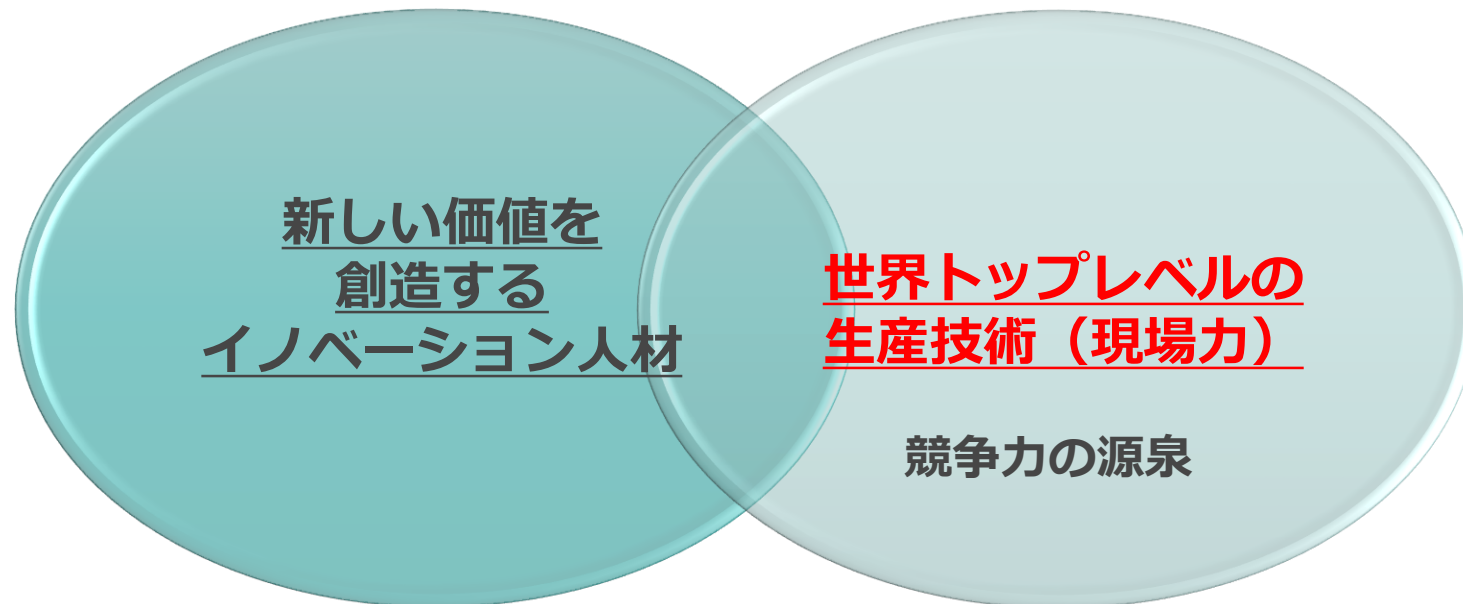
国際競争力のあるマテリアルリサイクル技術を国内外へ展開

LiB大量廃棄時代に向け、バッテリーtoバッテリーでレアメタルの循環利用を図るクローズドループ・リサイクルシステムを確立

将来の資源枯渇、需給ギャップへの対応



# 変革を支える人材戦略



働き方の変化、人材流動化、価値観の多様化等への対応

## 次世代育成活動

非鉄金属資源・素材の将来にわたる安定的な確保・供給と国際競争力の維持には、次世代を担う人材の育成も不可欠。若年層を対象とした取り組みやアウトリーチ活動を推進。



小学生を対象とした社会科見学プログラム



**JX 金属株式会社**